




〔果樹部門 令和6年度 参考となる研究成果〕

事項名	芽しぶの摘み取りによるリンゴうどんこ病の発生低減効果		
ねらい	リンゴうどんこ病の耕種的防除法として、伝染源である芽しぶの摘み取りが慣行的に行われてきたが、その防除効果は実証されていない。そこで、所内及び現地圃場において、春期に芽しぶの摘み取りを実施したところ、発生低減効果が確認されたので参考に供する。		
内容	<p>1 芽しぶの摘み取りによるうどんこ病の発生低減効果 うどんこ病の伝染源である芽しぶを摘み取ることで、本病の発生量を低減できる（図1）。</p> <p>2 芽しぶの発生推移と摘み取り 芽しぶは開花前から見え始める一方、開花日以降になってから顕在化するものもあるので（図2）、見つけ次第摘み取ることが望ましい。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>健全な花芽</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>芽しぶ（罹病した花芽）</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>うどんこ病の被害枝（発芽前）</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">うどんこ病により発生した芽しぶ</p>		
期待される効果	<p>1 リンゴうどんこ病に対する防除指導上の参考となる。</p> <p>2 化学農薬に依存しない病虫害防除の推進に寄与する。</p>		
利用上の注意事項	<p>1 白い粉で覆われている被害枝や被害葉を取り除くことで、うどんこ病の発生を低減できる。</p> <p>2 取り除いた芽しぶや被害枝、被害葉は園地に放置せず、集めて処分する。</p>		
問合せ先（電話番号）	りんご研究所 病虫害管理部 (0172-53-6132)	対象地域	県内全域のりんご経営体
発表文献等	平成28年～令和5年度 りんご研究所試験研究成績概要集（りんご）		

【根拠となった主要な試験結果】

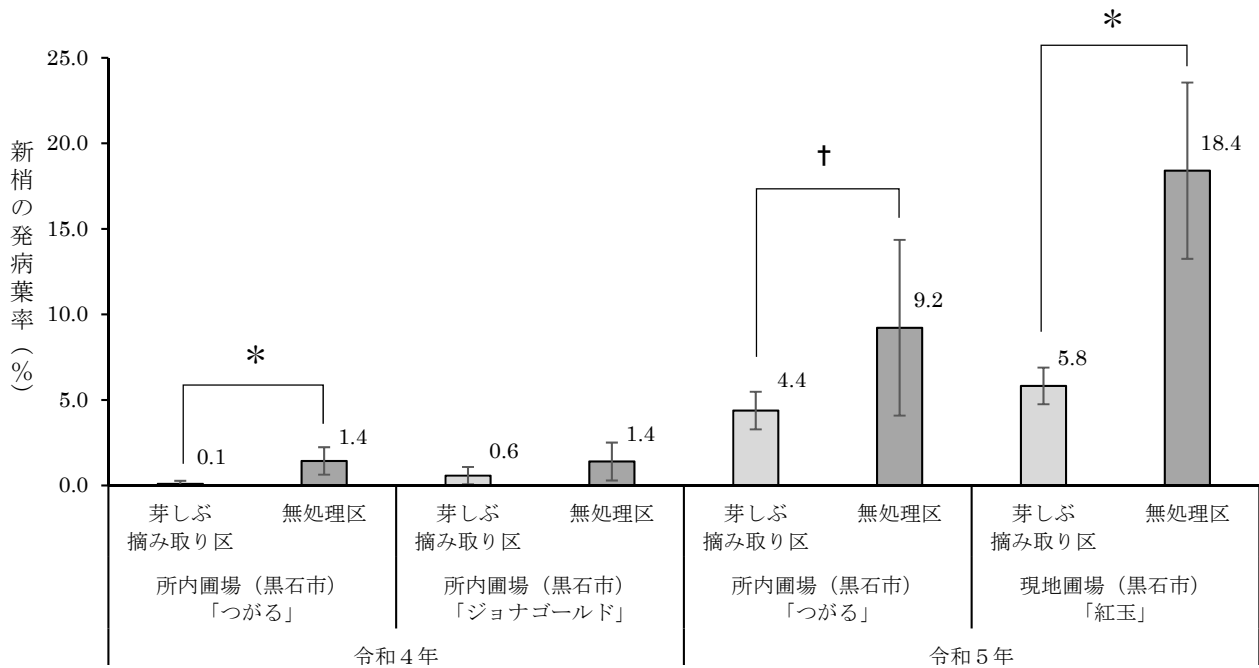


図1 芽しぶの摘み取りによるうどんこ病の発生低減効果 (令和4～5年 青森りんご研)

- (注) 1 令和4年は4月25日及び5月9日に、令和5年は4月25日、5月1日及び9日に芽しぶの摘み取りを実施した。
 2 令和4年は6月13日に、令和5年は6月8日に発病調査を行い、各区3～5樹の各20新梢の全葉を調査対象とした。数値は発病率の平均値を示す。
 3 エラーバーは標準偏差を示す。*、†は各無処理区に対し、Student (令和4年) 又は Welch (令和5年) のT検定において、それぞれ5%水準、10%水準での有意差があることを示す。なお、T検定はアークサイン変換値に対して行った。

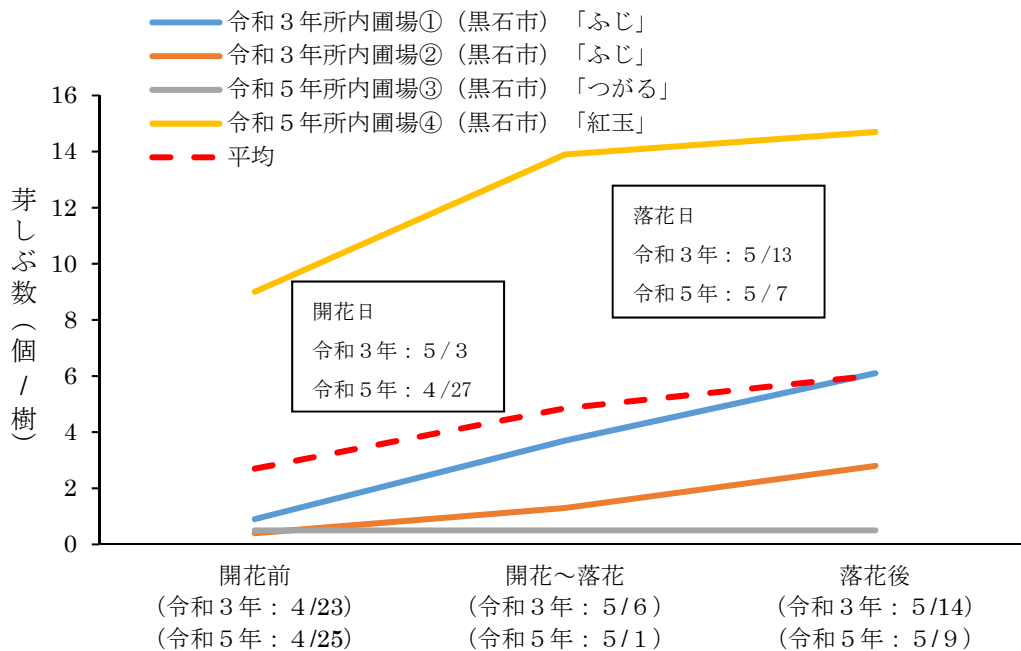


図2 りんごにおける芽しぶの発生推移 (令和3、5年 青森りんご研)

- (注) 1 横軸の (/) は各試験年次における芽しぶ数の調査日を示す。
 2 令和3年は7～9樹/区、令和5年は15樹/区を対象に調査し、平均値を実線で示している。さらに、実線で示した4区の平均を点線で示す。